

齋藤茂吉全集

第三卷

齊藤茂吉全集

第三卷



第二十四配本（全三十六卷）

齋藤茂吉全集 第三卷

定價 千八百圓

昭和四十九年八月十三日發行

著者 齋藤茂吉

發行者 岩波雄二郎

發行所 東京千代田區一ツ橋二丁目五番五號
株式會社 岩波書店

印刷・精興社 製本・牧製本

落丁本・亂丁本はお取替いたします

目次

寒雲

昭和十二年

豐年	三
新年	四
一月雜歌	五
梅	七
春寒	七
庭前	八
歌會の歌	九
近作十首	九
岡麓先生還曆賀歌	二

餘響	二
涓滴	一四
晚春の山	一六
近況雜歌	一七
木芽	一八
平福泰子新婚賀	二〇
中村良子新婚賀	二〇
布野	二二
湯抱	二二
唐鐘疊ヶ浦	二三
砂彌島	二三
松山道後	二四
琴平より高砂加古	二四
淡路	二五
大和鴨公	二六
旅中	二七

左千夫忌	二七
近狀一首	二七
伊香保	二六
手帳より	二九
出動	三二
新萬葉集	三三
B K放送の歌	三三
箱根にて	三四
一國民の歌	三五
時事歌抄	三六
保定陥落直後	三八
觸發の歌	四〇
箱根小吟	四一
山房小歌	四三
此日頃折々	四五
初冬	四七

昭和十三年

街頭小歌	四
隨緣雜歌	四
冬の月	五
卽事五首	五
冬岡	五
戰車の音	五
冬の薔薇	五
新冬	五
南京落つ	五
雜歌控	五
貫徹	六
新春	六
寒の華	六
寒林	七

虎耳草	三
小生活	三
春陽	四
聞北のけむり	六
春	七
選歌行	六
底ごもり	八
節忌	八
赤彦忌	八
憲吉忌	八
沼	八
トオチカ	六
御柱行	七
露伴先生	七
梅雨まで	八
海邊	八

放水路	九二
酸漿草	九三
夏深し	九三
箱根	九六
馬追	九七
明神嶽	九八
金時山	九八
左千夫忌	九九
子規忌	九九
祝歌五章	一〇〇
その折々	一〇一
ぶだう	一〇一
山房折々	一〇三
挽歌	一〇七
山房微吟	一〇八
英靈凱旋	一一〇

雑歌控	二二
-----	----

昭和十四年

歳旦頌	二八
鶴	二九
國祝ぎ	二九
新年	三〇
戦勝新年	三一
冬の泉	三三
豊酒	三三
戦勝日本	三三
皇軍	三四
山茶花	三五
梅	三五
風	三六
雑歌抄	三七

内親王御生誕	二九
英譯萬葉集竟宴	三〇
ロットラー總統五十回誕辰	三一
作歌其折々	三一
青羊齒	三四
多胡	三五
日曜	三七
靖國神社大祭	三八
日記より	三八
浮沼池	三九
鴨山	四〇
佐比賣野	四一
布野	四一
近作雜歌	四三
深大寺	四五
節忌	四五

赤彦忌	一四六
左千夫忌	一四六
姫あやめ	一四七
銃後	一四八
記念日を迎ふ	一四八
七月二十日曉	一四九
こゑ	一五〇
歌碑行	一五一
明神嶽明星嶽	一五四
山莊日記	一五五
續山莊日記	一五九
小吟	一六五
雑歌控	一六七
卷末記	一七三

のぼり路

昭和十四年

高千穂峰	一七
可愛山陵	一七
高屋山上陵	一八
吾平山上陵	一九
鹿兒島神宮・石體神社	一〇
霧島途上	一三
霧島林田温泉	一三
蝦野・韓國嶽・大浪池	一四
霧島神宮・參拜步道	一六
古宮址神籬齋場	一八
歸途・湯の野温泉・高千穂寮	一九
硫黄谷	二〇

高千穂途上	一九二
高千穂山上	一九三
東串良・柏原	一九五
指宿	一九六
指宿植物試驗場	一九六
山川港	一九七
長崎鼻・開聞嶽	一九八
池田湖・枚聞神社	一九九
枕崎港	二〇〇
野間岬（笠狭之碕）	二〇一
加世田・伊作	二〇二
吹上濱	二〇四
川内市	二〇五
山本改造社長生家	二〇六
磯島津邸	二〇七
四照花	二〇七

霧島川	二〇八
關門	二〇九
秋	二一〇
名古屋	二一一
冬	二一二
晩秋の園	二一二
隨縁	二二三

昭和十五年

皇紀二千六百年	二二七
いきほひ	二二八
紀元二千六百年	二二八
共鳴	二二九
あまつ日	二三〇
協和	二三一
冬山	二三三

皇土の讃	三三
行進	三四
近縁抄	三五
山房小歌	三五
霧氷	三六
勝さび	三七
新年頌	三八
躍進	三八
祝歌	三九
讃歌五章	三〇
奉讃歌	三一
紅梅	三一
奉祝紀元節	三一
砂	三三
春霞	三三
路の臺	三四

塵	三三
山房近作八章	三六
たまもの	三七
殿臺	三八
九十九里濱	三九
草いぶき	四〇
行春	四〇
中村憲吉君七周忌	四一
森山汀川君還曆賀	四二
隨縁歌	四三
受賞	四九
六月	五一
衝迫	五三
山中滞在吟	五三
讀壽貞尼考	五七
溫海	五八